

あなたは、どれだけの事実を知っていますか

「線量計が鳴る」 朗読劇

中村敦夫 米沢公演

元・原発技術者のモノローグ

Atsuo Nakamura In Yonezawa



4月28日 土

14時開演(13時開場)

置賜総合文化センター (米沢市金池3-1-14 ☎ 21-6111)

前売券 1,500円 (当日 2,000円)

(高校生以下無料 お問合せ、ご予約は勤労者福祉協会 ☎ 0238-21-5250まで)

原発の町で生まれ育ち、原発で働き
そして原発事故ですべてを失った。
これは天命なのか。それとも陰謀か?
老人は謎解きの旅に出る。

■主催 さようなら原発 米沢 (設立5周年記念事業) 一般社団法人米沢地区勤労者福祉協会

■後援団体 米沢市教育委員会 山形県平和センター 米沢地区平和センター 憲法9条を護る米沢市民の会 福島原発被災者フォーラム 高畠共生塾 生活クラブやまがた生活協同組合 幸せの脱原発ウォーキング 平和憲法を守る高畠町連絡会 長井・西置賜9条の会護憲ネットワーク 護憲ネット21米沢 米沢市教職員組合 米沢革新懇話会 新日本婦人の会米沢支部 治安維持法国賠同盟米沢支部 東置賜地区平和センター NPO法人 遅筆堂文庫プロジェクト 南陽市九条の会 戦争やんだ!おきたまの会 共立社コープよねざわ <順不同>

元・原発技師のモノローグ〈独白〉

線量計が鳴る

脚本・出演 中村敦夫

故郷を思いひとり語る

この朗読劇は俳優で作家の中村敦夫さんが書き下ろしたオリジナル作品です。小・中、そして高校の途中までいわきで過ごした中村さんにとって、東日本大震災と原発事故は大きな衝撃でした。津波で破壊された海岸線の前で終戦後の焼け野原を思い起こし、放射能に汚染された故郷に言葉を失いました。

こうしてしまったのはだれなのか。だれが責任をとるのか…。ジャーナリストでもある中村さんは、深く自問します。そしてたどり着いたのは「原発マフィア」ともいえる原発政策の闇であり、政・財・官・学・マスコミなどの利権構造でした。

この劇では、原発立地町である双葉町出身の老人を語り部にして、原発事故の

あと、何が起こったのかを見つめ、その本質と背景を明らかにしていきます。しかも、中村さん自身があるさと訛りの老人を演じることで、静かでリアルな怒りが立ち上がります。

「原発立地自治体に住んでっから、再稼働しねえど飯が食えねえと言い張る人がいる。んだら聞くが、あんたさえ飯が食えれば、周囲の人間や子孫がどんな目に遭ってもいいのげ？ 他人に迷惑をかけず、まともな仕事で、自分の飯ぐらいちゃんと食っていげよ。ほんでねえと、あんた、人間の肩になっちゃうぞ」

まっすぐな言葉が、震えるごとに沁みていきます。

中村 敦夫 *Atsuo Nakamura*

一九四〇年東京生まれ。小・中学校時代をいわきで過ごす。

磐城高校に入学したが、半年後に都立新宿高校に転校。東京外国语大学を中退して俳優の道へ進み、一九七二年放映の「木枯らし紋次郎」が空前のブームに。ニュースキャスターや参議院議員なども務め、作家としても活動している。主な著書に小説『チエンマイの首』、同志社大大学院の講義録『簡素なる国』など。